咲き競うアヤメに囲まれて―伊東さんとお孫さん

咲き乱れる800株のアヤメ

町原といっても飛び地的に小堤地先に在る、伊東達雄さん宅では、約800株のアヤメ(花しょうぶ)が咲き乱れ、ここ数年、近所や愛好家の話題にのぼっています。

20年前に4品種から始められ、今では60の品種があるそうです。中には、八重咲きで芯に変化を持ち、花びらが25センチにもなる〝新朝日の雪〟や、白地に赤の覆輪がある〝狩衣〟など、色彩も豊かで観賞価値は十分にあると思います。

来年はうかがってみてはいかがでしょうか。

ジャンボ機に乗り込む子ども達

成田空港開港7周年記念

体験飛行で空の旅を満喫

5月30日、成田空港開港7周年を記念して、空港公団から近隣町村の約1、900人が房総半島一周の体験飛行に招待されました。

当町からは、町長はじめ空港関係の役職員と大総小・上堺小の生徒達がジャンボ機に搭乗しました。

子ども達は、晴天の上空から見下す地元横芝町周辺や九十九里浜・成田空港・館山湾・犬吠崎・鋸山など、グリーンとブルーの調和したふるさとの風景に深く感動し、快適な空の旅を満喫しました。

水道施設を見学 ―― 町婦人会 ――

水道週間中にあたる6月4日、町婦人会(高埜考子会長)常任委員のみなさんが、東金市に在る山武水道の施設を見学しました。写真は、九十九里地域水道企業団の施設(ろ過池)を見学しているところです。一家の台所をあずかる主婦の目は、真剣そのものでした。

私のひとこと

父の日 里の父を思う

小川堆子(南部二)

両親は群馬県に2人で暮しています。父は80歳です。老若男女大勢のお友達がいるので、淋しくないと言います。高血圧で必臓も悪く、足も不自由です。人生山有り谷有り、と言いますが、父は谷ばかりだったろうと思います。厳格だが静かな父で、いるだけで安心でした。そして父の背はいろいろなことを教えてくれました。

私が長男を産んだ時、「親になるのは誰でもなれる、如何に親たらんかだよ」が、父の祝いの言葉でした。万分の一も果せず、子育てに格闘して大変と思う時、親の有り難さ、偉大さに敬服します。

父の少年時代の夢は、画家だったそうです。子どもがそれぞれ独立するようになって、好きな絵を楽しめるようになりました。市役所からの話があり、ボランティアの一環として、油絵の指導をしています。「この年になって、こんな自分が役立つなんて幸せだ」と言う。そんな父に、一度もプレゼントをあげたことがない、「変わりなく暮していますよ」と電話するくらいですね。家庭を守り、親に心配かけないようにしよう。それが、父に贈れるせめてものプレゼントなのです。子ども達が少ない小遣いの中から贈ってくれるプレゼントは、暖かく嬉しくて心地良いものです。

義理や形やプレゼントごっこでなく、子どもに、ありがとうと言われるような親になりたいです。